

III. まとめ

【後沢遺跡】

- ・ 縄文時代には、陥し穴を用いた狩りの場であったことが明らかになりました。北側の調査区で過去に発見していた陥し穴と同じように用いられたとみられます。
- ・ 古代には、遺跡南東側も居住域として使われていたことが明らかになりました。

【後沢道南遺跡】

- ・ 古代には、2つの時期に掘立柱建物跡が並んで建てられていることを確認しました。昨年度実施した北側の調査区では、古代の竪穴建物跡2棟、柱列跡1条などがみつかり、遺跡南側は、遺跡北側や後沢遺跡などとは場の使われ方が異なる可能性が出てきました。

【周辺遺跡との関わり】

- ・ 縄文時代には、周辺の御駒堂遺跡や下萩沢遺跡と同様、陥し穴を用いた狩りの場でした。
 - ・ 周辺の古代の遺跡には、城柵*の伊治城跡や、それとの関わりが想定される竪穴建物跡が多数見つかっている御駒堂遺跡・下萩沢遺跡等があり、今回の成果との関連も注目されます。
- *城柵・・・古代の律令政府が東北各地に設けた対蝦夷政策・地域支配のための政治的・軍事的拠点。

後沢遺跡・後沢道南遺跡発掘調査 現地説明会資料

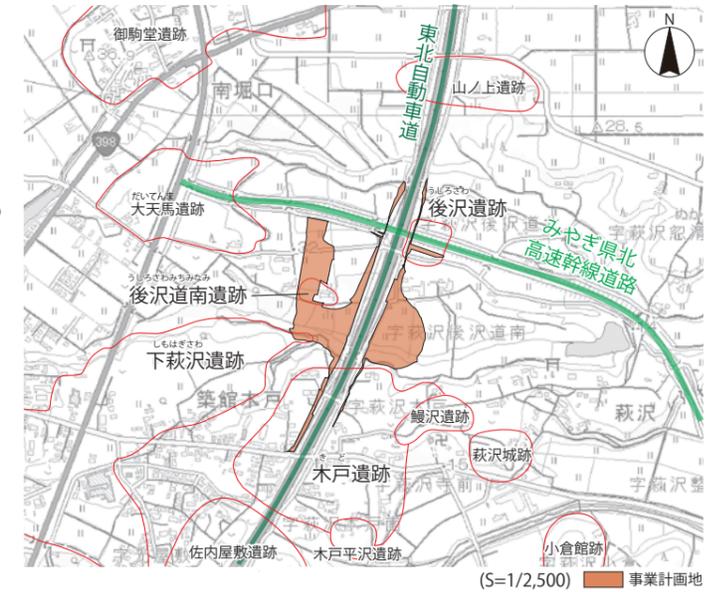
令和4年9月10日(土) 10:00~ 13:30~

1. はじめに

県教育委員会では、(仮称)栗原インターチェンジ建設の計画地内に、後沢遺跡、後沢道南遺跡、大天馬遺跡、下萩沢遺跡、木戸遺跡が所在することから、令和2年度より、遺構の分布を調べる確認調査を実施しています。その結果、後沢遺跡と後沢道南遺跡で竪穴建物跡などが発見されました。

このため、より詳細な記録を残すための本発掘調査を令和3年度より実施しています。

以下、今年度の本発掘調査で明らかになった後沢遺跡と後沢道南遺跡の調査成果について公表します。



第1図 事業範囲と周辺の遺跡



写真1 発掘調査区の位置(南から)

【調査要項】

遺跡名:後沢遺跡・後沢道南遺跡
所在地:栗原市築館字萩沢後沢
調査原因:(仮称)栗原インターチェンジ整備事業
調査主体:宮城県教育委員会(教育長 伊東昭代)
調査担当:宮城県教育庁文化財課
調査協力:宮城県北部土木事務所栗原地域事務所
栗原市教育委員会
調査期間:令和4年7月4日~11月末(予定)



文化財課 埋蔵文化財HP



みやぎ文化財チャンネル

時代	年代	日本の主な出来事
旧石器	約800~700万年前 約4万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる
縄文	約1万6000年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる
古墳	紀元後400年頃	豪族が盛んに古墳を造る
飛鳥	607年 645年	推古天皇、小野妹子を隋に遣わす(遣隋使) 大化の改新
奈良	710年 724年 752年 780年	平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が創建される 東大寺の大仏が完成する 蝦夷の反乱で多賀城が火災にあう
平安	794年 869年 894年 1167年	平安京(京都市)に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる
鎌倉	1192年 1274・1281年	源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役(元寇)が起こる
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる
安土桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城が始まる
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける
明治	1868年 1876年	明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。

☆後沢遺跡 ★後沢道南遺跡